

# 英語ノートってどんな教材

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## 英語ノートの構成

来年度から 5.6 年生に配布される“英語ノート”（『英語ノート 1』と『英語ノート 2』）は教科書ではなく“副教材”である。従って、使用義務はない。しかし、多くの学校では無料配布される“英語ノート”が活用されることが予想される。（すでに配布済み）

指導資料を使って授業を再現した場合、子どもたちが発話するであろう語彙数は以下の通りになる。

5 年生 約 130 語程度

6 年生 約 155 語程度

5・6 年生 合わせて 50 表現程度（Good morning. Nice to meet you.）

各レッスンでは、学習指導要領で内容として示されている「主としてコミュニケーションに関する事項」と「主として言語と文化に関する事項」の両面を配慮して作成されている。両方の項目が別立てではなく、扱う題材自体が文化に関することになっている。

両学年とも Lesson 1~Lesson 9 で、各レッスン 4 時間扱いである。（Lesson 1 のみ 3 時間）

### （1）5 年生版

Lesson 1 世界の「こんにちは」を知ろう

Lesson 6 外来語を知ろう

Lesson 2 ジェスチャーをしよう

Lesson 7 クイズ大会をしよう

Lesson 3 数で遊ぼう

Lesson 8 時間割を作ろう

Lesson 4 自己紹介をしよう

Lesson 9 ランチ・メニューを作ろう

Lesson 5 いろいろな国の衣装を知ろう

### （2）6 年生版

Lesson 1 アルファベットで遊ぼう

Lesson 6 行ってみたい国を紹介しよう

Lesson 2 いろいろな文字があることを知ろう

Lesson 7 自分の一日を紹介しよう

Lesson 3 カレンダーを作ろう

Lesson 8 オリジナルの劇をつくろう

Lesson 4 できることを紹介しよう

Lesson 9 将来の夢を紹介しよう

Lesson 5 道案内をしよう

英語ノートは以下の 5 つの活動で構成されている。

Let's Sing・・・簡単な身振りや動作がついた歌

Let's Listen・・・CD を聞きながらテキストに○をしたり、線で結んだりする。

Let's Chant・・・CD にあわせてチャンツで発話の練習をする。

Let's play・・・ゲーム等をする。

Activity・・・友達との対話等、学習した英語を使ってやりとりをする。

各レッスンの流れはおよそ以下の通りである。

1 時間目・・・導入で国際理解的な内容を扱う。新しい表現のリスニング。チャンツ。

2 時間目・・・リスニング。教師と ALT のやりとりを聞く活動。教師が児童に問いかける活動。

3, 4 時間目・・・表現を使ってのコミュニケーション活動。Show and Tell でみんなに発表する活動。

# 英語ノートの活用ポイントは？

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

文科省から配布される教材『英語ノート』があれば、「すぐに外国語活動の授業は大丈夫！」というわけにはいかない。

『英語ノート』には、指導資料（35時間の詳細のプラン掲載）とリスニングCDが付属されている。「初めて授業をする先生でもやりやすいように」と工夫を施してあるようだが、実際に授業をするまでの壁は大きい。

- ①初めて授業をやる場合、最初から45分間行うのは難しい。
- ②1時間の指導のパターンが一定でなく、毎時間指導資料を細かく見ることが大変。
- ③指導資料はALTとのTTが前提であり、担任1人でできるように修正する必要がある。

移行期間の1年目は、各校で“初めて英語の授業をやる”先生が沢山いるはずである。従って、英語ノートのできそうな部分から少しずつ行うのがよいのではないだろうか。英語ノートはレッスン1から9までの構成になっているが、順番通りに行う必要はない。英語ノートの内容は、大きく次の3つに分けられる。

「歌・ゲーム的活動」「対話に関わる活動」「国際理解的な活動」

これから初めて小学校で英語の授業を行おうとする教師が、授業に慣れていくということとを前提に“英語ノートの活用”を以下のように提案する。

第1段階・・・歌やゲームだけを短時間で授業をする。

第2段階・・・対話などの表現を授業する。

第3段階・・・国際理解的な内容を授業する。

## 【第1段階】

初めてならば、5分程度の短い時間で授業を行うのが良い。

短時間の活動を組み合わせて徐々に授業時間を延ばしていく。ゲームや歌は、それだけで完結する内容であり、子ども達も見通しを持ちやすく、教師も授業がしやすい。

## 【第2段階】

しばらくすると子どもたちは、ゲームだけでは飽きてくる。対話などの表現を授業扱っていききたい。特に高学年であれば、内容面で知的な興味関心を引く活動を行う必要がある。少しずつ知的な内容や友達との対話活動を取り入れていくことで授業が発展していく。

友達との対話を目指すので、子ども達に発話させる事が増えてくる。対話をするために単調な練習が繰り返されると子ども達も飽きてしまう。しかし、何らかの形での練習は必ず必要である。変化のある繰り返し。練習場面の工夫を考えて行かなくてはならない。

## 【第3段階】

英語活動に慣れてくると、子ども達の興味関心も自然と広がってくる。そこで、国際理解的な内容を扱うことが大切になる。しかし、国際理解的な学習には、教師の英語運用能力や教材準備などハードルが高い。従って、教材や授業展開など校内体制のバックアップが必要になる。教材と教師の多少の英語の練習があれば、最初の段階からでも授業に取り入れてもよい活動である。

教師から子ども達へトップダウン的に英語を聞かせて、子ども達は簡単な英語で反応をする事になる。子ども達にとっては、負担がそれほどかからない。

# 5分のゲーム活動からスタート

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## (1) 歌やゲームだけを短時間で授業をする

5分×9つのパーツ＝45分授業

教師が英語活動に慣れるためには、5分のゲームから始めるのが良い。ゲームだけで1年間通すのは無理だが、最初の段階ではゲームだけの授業でも高学年の子たちも飽きずに取り組む事ができる。

英語ノートには、沢山の歌やゲームが様々なレッスンで紹介されている。その中で、すぐに使えるパーツ・何回も授業で使えるパーツを抜き出した。

Let's Song・・ Hello Song, Ten Steps, Twenty Steps, Head Shoulders Knees and Toes

Sunday Monday Tuesday,

Let's Play・ キーワードゲーム、数字ピラミッドゲーム、スネークス・&ラダーズゲーム

サイモン・セズゲーム、ビンゴゲーム、アルファベットカルタ、

ミッションゲーム、チェーンゲーム

発展的活動・ステレオゲーム、カルタ取り、Go fish, three hints Quiz, ビンゴゲーム、集中力ゲーム

これらの歌やゲーム活動は、一つ行うのに5分程度の時間で足りる。短時間で繰り返し何回でも行えるのがいい点であり、子どもたちも飽きずに取り組める。

英語活動の1、2回目は、5分のゲームで終わり。3回目くらいからは、ゲームを2つにして10分にしてみる。というように少しずつ授業を延ばして行けばよい。

### 【組合せの例】

1回目 (5分程度)	Seven steps (歌)
2回目 (5分程度)	サイモン・セズゲーム
3回目 (10分程度)	Seven steps (歌)、サイモン・セズゲーム
4回目 (15分程度)	Twenty steps (歌)、スネークス&ラダーズゲーム
5回目 (15分程度)	スネークス&ラダーズゲーム、数字ピラミッド
6回目 (20分程度)	サイモン・セズゲーム、ミッションゲーム、キーワードゲーム

このように、歌やゲームのパーツを組み合わせて授業を少しずつ長くしていくと教師にとっても子どもたちにとっても負担が少ない。

慣れてくれば、英語ノート以外からの楽しい活動を授業に取り込むことができるようになり、様々な点で工夫したり、指示を英語で出したりと教師側にも余裕が出てくる。

### 【5分のゲーム授業のポイント】

- ・盛り上がっていても引っぱり、短時間で終わりにする。  
「また、やりたいな」と余韻を持たせておくと、同じゲームも何回も使える。
- ・同じゲームをやるときは、ルールを少し変える。  
同じゲームでも少しずつルールに変化をつけることで、盛り上がる。だんだんと条件を加えていくなど複雑化していく。
- ・教師が使う英語表現は、あらかじめ決めておき、それ以外は使わない。  
最初はきついかもしれないが、慣れる。
- ・ゲームの説明は、言葉でなく例示で示す。  
言葉で説明すると難しい。実際に児童とやりとりしながら少しの英語で説明していく。
- ・勝敗がつくものは、できるだけ避ける。  
勝負にこだわりを持つと、英語を使わなくなる。
- ・教師は、何のためにゲームをやらせているのかを明確にしておく。  
児童は、ゲームを楽しんでいるが、教師は〇〇の練習をさせているという感覚。

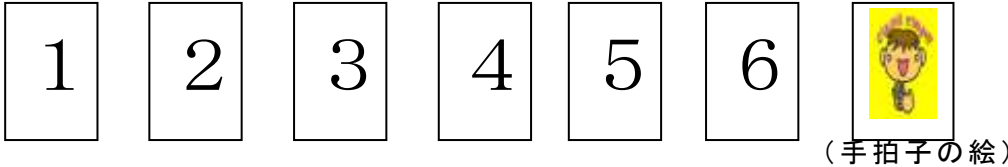
# 簡単にできる5分のゲーム①

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## (1) セブンステップス

① 1～7までのカードを黒板に貼る。

教師：What number is this?と聞きながら貼るなど工夫があると良い。



② 『Seven Steps』を歌う。

③ ダウとナンバーを決めて、その数字の時は、手を叩く。

教師：Chose one card. と子どもにカードを一枚選ばせる。

④ 応用編

- ・ 数字カードの裏に手拍子や足踏みやジャンプなどを書く。  
裏返したカードの時には、その絵に描いてある動作をする。
- ・ 数字の順番を変えて歌う。

## (2) サイモンズセズ

指導者の指示に従って体の一部などをタッチさせる。間違ったらアウト。最後まで残った児童が勝ちになる。

① Simon says “Touch your head.” → 「サイモン・セズ」をつけて言っているのでこの指示に従って動かなければならない。

② “Touch your head.” → 「サイモン・セズ」をつけていないので、動いてはいけない。「サイモン・セズ」を付けたら付けなかったり、体の部位を変えたりして最後の1人になるまでゲームを続ける。言うスピードを速くしたりするとより楽しく活動できる。

(英語ノート指導資料より)

## (3) Head Shoulder



① 歌に合わせて動作をする。

② スピードを変えたり、逆からやったりすると盛り上がる。

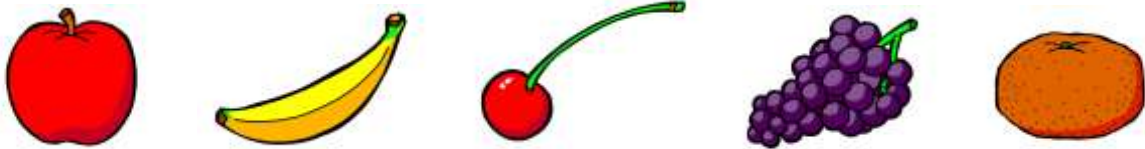
※英語ノート 1

# 簡単にできる5分のゲーム②

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## (4) ミッシングゲーム

①絵カードを黒板に貼る。



②子ども達に目を閉じさせる。

教師：Close your eyes. と言いカードを一枚隠す。

③何のカードがなくなったかを聞く。

教師：What's missing?

④全体の枚数を増やしたり、隠す枚数を増やしたりすると盛り上がる。

## (5) キーワードゲーム

### キーワードゲーム

(黒板にフラッシュカードを数枚貼っておく。)

①Repeat after me. (T: apple, C: apple, の順番で一度単語の練習をする。)

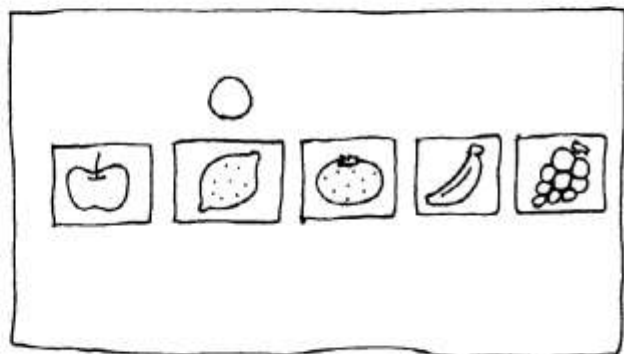
②Today's keyword is "Lemon". (言いながらレモンのカードの上に印をつける。)

③(もう一度始めから繰り返す。T: apple, C: apple, T: lemon, C: lemon のように続けCが"Lemon"と言ったら) No! Lemon is a keyword.

④Lemon, clap. (手をたたきながら。)

⑤Let's practice. Lemon. (Cは手をたたく。)

⑥Good! Let's start. Apple.....



# 簡単にできる5分のゲーム③

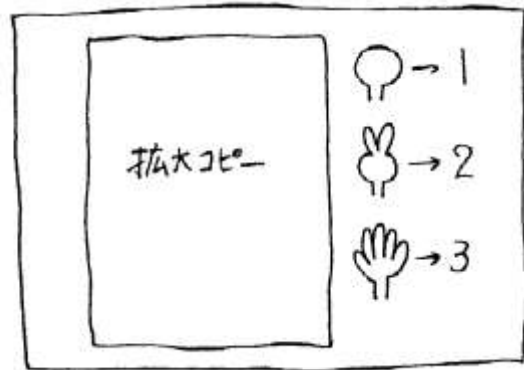
小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## (6) スネークゲーム

### スネークス アンド ラダーズ ゲーム

(拡大コピーを黒板に貼り、学習カードを子どもたちに配っておく。)

- ① Let's play snakes and ladders game.
- ② Make pair and use your eraser.
- ③ Any volunteer? (1人前に呼び、じゃんけんをする。Tがチョキで勝とよい。)
- ④ I'm a winner. How many? (チョキを見せながら。)
- ⑤ (C: Two.) So I can move two. (チョキの絵をかき、となりに2と書く。)
- ⑥ One two. (言いながらTのコマを進める。)
- ⑦ (じゃんけんをし、パーで勝つ。)  
I'm a winner. How many? (パーを見せながら。)
- ⑧ (C: Five.) Yes, but today, three.  
(パーの絵をかき、となりに3と書く。)
- ⑨ One two three. (言いながらTのコマを進める。)
- ⑩ (じゃんけんをし、グーで勝つ。)  
チョキ is two, パー is three, how about グー?
- ⑪ (C: One.) Yes! グー is one.
- ⑫ When you get to the goal, you're winner!



※英語ノート1 (レッスン3)

# 簡単にできる5分のゲーム④

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## (7) ピラミッドゲーム

### 数字ピラミッドゲーム

(ピラミッドの拡大コピーを黒板に貼り、学習カードを子どもたちに配る。)

①Write your favorite numbers 1to 20.

(1~20と板書する。)

②Five, eleven, seventeen.....

(言いながら黒板のマスに数字を書き入れる。)

③Any volunteer? (1人前に呼ぶ。)

④じゃんけん。Rock paper scissors go!

(Tが勝つとよい。)

⑤I'm a winner. Five!

(好きな数字を言いながら、黒板のマスにまるをする。)

⑥Five. Circle. (相手のカードにもまるをさせる。) Thank you.

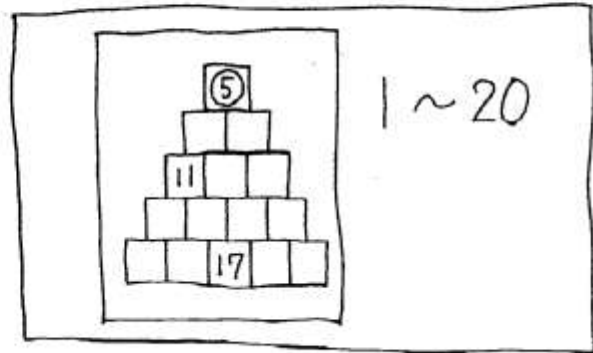
⑦Any volunteer? (別の子を呼び、じゃんけんをする。Tが負けるとよい。)

⑧What number? (好きな数字を言わせる。)

⑨(相手が16と言ったら) Sixteen. Circle.

⑩(黒板のマスに16が無い場合) Oh, no circle.

⑪When you check all numbers, finish. Start!



※英語ノート1 (レッスン3)

# 簡単にできる5分のゲーム⑤

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## (8) Don't say 21

### ドント セイ 21 ゲーム

(黒板に1～21の数字を書いておく。)

① This is "don't say 21 game". Don't say 21.

(言いながら黒板の21の上に×をつける。)

② Any volunteer? (1人前に呼ぶ。)

③ Start. (言いながら1の上にスタートと書く。)

④ One two three. (3つ数字を言ったことを指で数えながら。) Three numbers, OK.

⑤ You can say three numbers. (子どもに数字を言わせる。)

(C: Four five. 2つ数字を言ったことを指で数えながら。) Two numbers, OK.

⑥ Six. (1つ数字を言ったことを指で数えながら。) One number, OK.

⑦ (続けて数を言っていき、21を言ってしまった方が負けとなる。) Don't say 21!

※数字は、1から始まり1つでも2つでも3つでも言ってよいが4つ以上は言えない。

スタート

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

×





# 対話などの表現を授業する①

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## 対話などの表現を授業する

高学年になると歌やゲームだけでは、子どもたちの興味関心が次第に薄れていく。

歌・ゲームの指導に慣れてきたら、次の段階として、英語の表現（ダイアログ）を授業で扱いたい。

英語ノートには、単元ごとに扱う表現が絞られている。英語ノートに付属する指導資料では、単元ごとに流れが違ったり、ALT に頼らなければならない場面が多かったりと難しい点が多い。

そのときに大切なのが、1 時間の授業の流れである。文科省のガイドブックで提案される『1 時間の流れ』は次のようになっている。

学校で英語ノートを導入する場合も、この流れに活動を当てはめていけばよい。

およそ毎回の流れが一定であると授業が安定する。

### ①ウォームアップ

英語であいさつをし、児童にこれから外国語活動を始まることを意識させる。歌やチャンツをみんなで歌ったり、2～3分で終わる簡単なゲーム活動などをして、緊張をほぐすとよい。

### ②導入と展開

ゲームやクイズ、絵本の読み聞かせ等で、取り上げる内容や表現を導入する。その際には、教師がジェスチャーを使ったり、具多的な物を示したりして、児童の理解を助けることが大切である。また、既習語彙・表現を活用し、常に活動の中に身につけさせたい内容をスパイラルに取り込むことも大切である。

（練習）（コミュニケーション活動）

さらに、本時の表現を扱った歌やチャンツで、その表現を繰り返し聞かせたり、口にださせたりして慣れさせるのも良い。

1 時間の授業の中でも、できれば聞く活動から、口まねをする活動、記憶し自分の物にする活動、自分の意識で選んで発話する活動へと段階的に構成する。（下線 鶴田）

### ③まとめ

本時の授業の中で、何がよかったのか、態度面や表現面について、教師側から児童に声がけをする。

「小学校外国語活動 研修ガイドブック P 4 6」

そこで、表現を指導する際には、ステップを3つに分けて指導することを提案する。この流れで授業を進めることを意識すると、英語ノートの指導資料にとらわれることなく授業展開をすることが可能になる。

## ①表現との出会い ②表現への慣れ親しみ ③コミュニケーション活動

①まず、新しい表現に出会う。

②そして、教師の発話を聞いたり答えたり、ゲーム等をしたりして表現に慣れ親しむ。

③最後にその表現を使って友達とコミュニケーション活動をする。

# 表現との出会いの工夫はどうする？

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## ①表現との出会い

学習する表現に初めて出会う場面である。

扱いは短時間だが、ここのインパクトがその後の活動に与える影響は大きいと実感している。この段階で新しく出てきた表現の意味が分からなければ、その後の活動は全てやらされている活動になってしまう。

“英語ノート”の指導資料では、ALTと教師とのやり取りを通して、その状況を説明している場面が多くある。

しかし、英語ノートの授業プランでは状況設定の部分が非常に軽く扱われているように感じる。表現との出会いを考える際に、次の事を意識して授業している。

- ・ 児童の身近な暮らしに関わる場面であるか。
  - ・ 日本語での説明がなくても、使われている英語の意味を想像できるか。
  - ・ 国際理解的な内容を含んでいるか。(毎回ではない)
  - ・ 子ども達が興味関心を引く題材を扱っているか。(学級の友達や先生、芸能人を扱う等)
  - ・ 設定が、複雑になりすぎていないか。
- (見ていて楽しいけど、意味が分からなかったということが多々ある)

教師としては、この場面でいかにして子ども達をひきつけることができるかがポイントである。そのために扱う題材は学級の実態に応じて工夫することが望ましい。

教師の工夫のしどころであり、多くの実践を積み重ねていくべき部分である。

指導資料では、担任とALTとのやりとりで、状況設定を作っている場面が多い。

担任だけでやるとなれば、小道具を用意するなど工夫が必要になる。

## 【表現との出会い場面の作り方】

- ・ 一人でパペットなどを使い二役を演じて状況を作る。
- ・ 子どもを相手役にして状況を作る。
- ・ DVD等の視聴覚機器を使用して状況を示す。

英語ノートで表現を扱う場合に、指導資料通りでは、若干おもしろみにかける。

ここは、ちょっと工夫をしたい場面である。

一例として、以下のような工夫が考えられる。

## 【出会いの場面の具体例】

### 【How many～? (英語ノート1 レッスン3)】

表現との出会いの場面では、How many を使った活動をいくつも行うと盛り上がる。まずは、確実に How many? の意味が分かる活動をしたい。

子ども達に筆箱の鉛筆を数えさせる。How many pencils? と聞けば多くの子は数字を答える。答えられなければ、教師が「1, 2・・・」と数えればよい。その後、教室内の様々な物を How many? と聞いていく。

高学年であれば、How many ~ in your house? と聞く。これが盛り上がる。テレビや時など家庭によってある個数は様々である。「えっ〇〇ちゃんの家はそんなにあるの?」と興味を持って友達の答えを聞く姿がある。

最後は、教師(このときはスーツを着ていると盛り上がる)が How many ポケット?

と自分の洋服を指す。

### **【Do you like～? (英語ノート1 レッスン4)】**

子ども達に馴染みのあるキャラクターを使うと効果的である。  
例えば、ドラえもんのイラストを提示する。どら焼きを出し、「Do you like どら焼き？」とドラえもんに聞く。次に、ネズミの写真を見せ、「Do you like mice？」と聞く。  
ほとんどの子が、日本語の説明なしでも何を聞いているのか英語で理解することができる。その後、色々な絵カードを見せ子ども達に Do you like～? と尋ねていく。

### **【What do you want? (英語ノート1 レッスン9)】**

誕生日の場面を設定する。  
児童を指名しておもちゃ等のカードを見せながら、Do you want～? と聞いていく。  
最初は、その子が欲しくない物ばかりを見せる。子どもは、No. と答え続けることになる。  
教師がちょっと困りながら沢山の絵カードを一度に見せて（黒板に張る）What do you want? と聞く。その後、子ども達に What do you want? と尋ねる。

※参考実践 森上小研究授業より

### **【Can you～? (英語ノート2 レッスン4)】**

Can you play baseball? と聞くと、子ども達は YES/NO で答える。  
しかし、これが意外と「好きか？嫌いか？」としてとらえてしまう子が多い。  
例えば、1人の子を前に出す。その子の前にロープを低めにしておく。  
教師：Can you jump? と聞く。躊躇する子どもに対して try! と声をかければ、ロープを跳び越える。後は、だんだんとロープの高さを高くして Can you jump? と聞けばよい。  
ここでは、男の子たちが盛り上がり挑戦する。(ケガに気を付ける)  
その後、Can you swim? Can you fly? Can you play the piano? と表現を変えて子ども達に聞いていく。

### **【When is your birthday? (英語ノート2 レッスン3)】**

導入の段階で月の名前を英語で理解させる事は困難である。  
数回の授業でカルタゲーム等を通して学習をする。  
誕生日の答え方は、最初は月のみから始めるのが良い。  
出会いの場面では、子ども達の多くが誕生日を知る人物を取り上げる。通常なら学級担任。  
教師：My birthday is ～. と黒板に数字を書く。これで誕生日を扱っていると分かる。  
ここで、子ども達に When is your birthday? と聞いていっても授業は流れるが、更に盛り上げるために、芸人やマンガのキャラクターを写真で出す。  
写真に向かって When is your birthday? と聞くことはおかしいので、その人物が好きな子になりきってもらい When is your birthday? と尋ねていく。教室は、かなりの興奮状態になる。最後に When is your birthday? と尋ね、自分自身の誕生日を答えさせる。

### **【ここがポイント！】**

表現との出会いの場面でのやり取りを見ただけで次の活動に移ると、よく分からないまま過ぎてしまう子ども達もいる。

表現との出会いの場面で、ロールプレイや寸劇を見せた後は、必ず同じ問いかけを子ども達にして、その場面で扱った表現を共有化したい。

# コミュニケーション活動の工夫はどうする？

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

英語ノートの単元構成（1単元4時間）の3,4時間目では、学習した表現を使って友達同士で質問したり、全体の前で発表したりする活動が多く設定されている。

英語ノートのページや附属するシートをそのまま使って学習できるようになっている。授業で実際に活動をさせると次第に出てくる問題点がある。

## 【コミュニケーション活動の場面で起こると予想される問題点】

- ・男子だけ女子だけと固まってしまう。
- ・日本語でやり取りをしてしまう。
- ・英語を言えずに困ってしまう。

この場面で、様々なルール（男女でやりなさい。英語を使いなさい等）を教師側から設定すると、活動が重苦しくなることがある。

この場面で活動の正否は、普段の学級経営にも大きく関わる。多少の苦言も必要な場合もあるが、次の3点を意識したい。

## ①『子どもたちの良い姿を誉め続けること』

## ②『教師の補助』

## ③『教師の工夫』

### ①良い姿を誉め続ける

最初は、一人二人かもしれないがアイコンタクトをしたり、男女関係なしに活動したり、英語をちゃんと使ったりする子達がいるはずである。

教師は、その子達を見逃さず、活動後にきちんと誉めたい。これをせずに注意だけをしていても子ども達の姿は変わらない。

地道な事であるが、良い姿を取り上げて誉め続けることで徐々に「そのようなことをすることが良いんだ」という雰囲気学級に根付いていく。

そのような意味で、活動後の振り返りや評価は大切にしたい。

例えば、活動後に日本語で次のように聞く。（ここは、何でもよい。）

「男女関係なく活動できた人？」「英語を使ってみようと頑張った人？」「お友達と目をしっかり合わせて話すことができた人？」

### ②教師の補助

コミュニケーション活動をさせている場面で、教師は様々なことをしなければならない。

- ・活動を積極的にやっていない子達を回って、教師から英語を使って問いかけをする。
- ・英語を使っている子達を誉める。
- ・間違った英語表現を使っている子にさりげなく正しい表現を教える。
- ・全体がどの程度英語を使えているか確認する。

### ③教師の工夫

- ・ 活動の時間を延ばす。  
短時間で終わりにすると、いつも決まった子同士でやり取りをして終わる。時間を長く設定することで、多くの子とやり取りをするようになる。そこで沢山の英語を聞き、最初は自信がなくても段々と自信を持ち取り組めるようになる。
- ・ 学級名簿を渡す。  
名簿等を渡されるだけで、ちょっとでも多くの子達に聞いてみようという気になり、男女関係なしに聞く必然性が多少生まれる。
- ・ ゲームに偏らない。  
ゲーム性が高いと勝敗やスピードにこだわることになり、当然日本語や指さしでのコミュニケーションになる。そのためには、ゲーム性があまり高くない活動が望ましい。
- ・ 「友達に聞いてみたいな」という活動をする。  
英語学習を始めたばかりであれば、How are you?や How old are you? What's your name?の当たり前の質問も喜んで行う。しかし、英語活動に慣れるにつれて“当たり前のことを聞く”活動に子ども達の興味は全く向かない。設定や題材が勝負になる。
- ・ 特定の状況下でのコミュニケーション場面では工夫をする。  
定番だが、買い物の場面や道案内の場面が英語ノートにもある。英語ノートの題材にブラサルファーで工夫したい。  
例えば、『英語ノート5年レッスン5の洋服屋での買い物』では、附属の洋服カードだけでは本当に欲しいと思える物がない。ここで便利なのが、広告の切り抜きである。“スポーツ系の洋服”“ちょっと可愛らしい洋服”等を加えるだけで雰囲気が変わる。  
『英語ノート5年レッスン9のランチメニューづくり』も同様である。英語ノートに附属している絵カードに、広告などの切り抜きを混ぜるだけで楽しい雰囲気になる。

# 国際理解的な内容の工夫はどうする？

小布施町立栗ガ丘小学校 鶴田恵市

## 国際理解的な内容を授業をする

学習指導要領に、『日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する』という項目がある。

国際理解的な内容の授業での扱いは様々なやり方がある。

毎回の授業で国際理解的な活動を入れると、準備に負担がかかったり、あやふやな扱いで終わってしまったりする事がある。

『国際理解的な内容』の活動だけを取り出した授業を提案する。

※以下、三省堂 HP 小学校英語活動へのコラム原稿より(執筆 鶴田恵市)

### 1 授業づくりのポイント

授業作りのポイントを6つ提案し、以下にそれぞれについて簡単にポイントを示す。

#### (1) 1つの題材を5分～15分程度の時間で扱う

英語に堪能な教師であっても45分間インプットを与え続けることは困難です。授業の後半の5分～15分程度で、身近な内容を扱うといいでしょう。

教えた内容がたくさんあったとしても、欲張らないことがポイントです。

#### (2) 簡単な英語で進める

英語に自信のある教師ほど、難しい表現を使いすぎて失敗してしまう話をよく聞きます。逆に英語が苦手な教師は、簡単な単語を並べたり、同じ内容を繰り返したり、ジェスチャーを加えたりと工夫をします。

まとまった英語を聞かせることは大切です。しかし、最初から難しい表現を使うと、教師も子どもたちも授業に抵抗を持ってしまいます。

#### (3) 子どもたちにとって身近な内容を題材にする

題材が身近であれば、それだけで子どもたちは一生懸命に聞こうとします。教師がどうしても伝えたい内容を題材にする場合も、子どもたちの身近な話題からその題材に入っていくことが必要です。

文化のことを英語で授業するときの題材選びのポイントは「同じ内容を日本語で授業して子どもたちが楽しいか、驚きがあるか」です。

#### (4) 写真や映像を提示しながら進める

英語でインプットする場合には、写真や映像はとても重要な教材です。子どもたちは、写真や映像を頼りに英語の説明を推測しながら聞きます。推測しながらでも内容がわかれば「英語がわかった！」と自信がつけます。慣れてくれば、英語で聞いていることなど意識せずに内容にはのめり込んでいきます。

映像は流しっぱなしでは面白くありません。映像を止めて、教師の簡単な解説を加えたり、子どもたちに考えさせたりする等の工夫が必要です。また、文化の紹介などが日本語でなされている資料映像の場合、日本語の音声は流しません。教師が簡単に英語で説明を加えていけばよいのです。

#### (5) 実物を用意する

可能であれば実物を用意します。これだけで子どもたちは授業に食いついてきます。子どもたちの興味関心が高ければ、そのテーマについての情報を知りたがります。自分のわかる単語からだけでも理解しようとしていきます。

## (6) 教師の説明だけでなく、子どもたちとやりとりしながら進める

説明を聞いているだけでは、どんなに興味がある内容でも次第に飽きてしまいます。例えば、何か新しい物を紹介したら、「それが好きか、持っているか、欲しいか」と簡単に英語で問いかけます。全体に問いかけて挙手させる場を作るだけでも、子どもたちは集中を持続させます。

この際の子どもたちの反応は、日本語で充分ですが、教師の聞き方次第では、子どもたちが知っている英単語等で反応させることもできます。

## 2 具体的な授業

### (1) 外国産クワガタ・カブトムシの実態

数年前、子どもたちの間で外国産クワガタ・カブトムシが大ブームになりました。近くのホームセンター等でも手頃な値段で購入できるようになり、多くの子どもたちが自宅で飼育していました。

そんな時期にテレビの特集で、クワガタ・カブトムシの産地であるラオスで昆虫の乱獲による環境破壊の様子が流れました。昆虫を手にして喜んでいる子どもたちにも考えさせたい内容でした。

インターネット上からラオスの国の様子がわかる画像を印刷して、1枚ずつの写真に簡単な英語の説明を加えました。テレビ番組は30分ありましたが、使ったのは数分だけです。全体でも扱った時間は10分程度です。

授業後の感想では、多くの子が内容について自分の考えを書いていました。「英語が難しかった」等の感想はありませんでした。英語の説明であったにも関わらず、内容にのめり込んでいたのです。

### (2) 外国の学校の給食

給食のある国では、給食にその国の食生活が出ています。子どもたちにとっては「日本との違い」を比較することも楽しい内容です。

インターネットから各国の給食の画像を印刷して、1枚の画像につき2~3文の説明を英語で加えました。説明後に、縮小した給食の画像と国旗のイラストを班に配布しました。子どもたちは、相談しながら給食の画像と国旗のイラストをマッチングさせていきます。各国の特徴を考えながらグループで盛り上がる活動となりました。

## 4 終わりに

このような授業を行うには、授業の準備に時間がかかり大変な面もあります。1人では大変ですが、校内の先生方と協力すれば多くのアイディアが集まります。教材の共有化もできます。

題材を探し、教材作りをしている過程で、教師自身も多くの発見や驚きに出会います。子どもたちに伝えたい内容が次から次へと出てくるはずですよ。